

# 環境技術実証事業 説明会及び研修会 開催結果について

## 1. 開催結果

説明会・研修会は3会場で計3回開催しました(表1)。

各回とも、午前中に説明会、午後に研修会を実施し、それぞれ終了後に技術相談会の時間を設け、技術の申請や実証機関の候補となる機関との相談を実施しました(表2)。なお、技術相談会は、技術調査機関、実証機関のご協力のもと行いました。

開催結果を表3に示します。ここでは、参加者を、技術申請者候補、実証機関候補およびその他の参加者数に分類し、それぞれについて相談者数を示しています。

表1 説明会・研修会 開催状況

	開催地	開催日	会場
第1回	東京	令和元年9月19日(木)	大手町サンスカイルーム
第2回	北九州	令和元年10月1日(火)	北九州観光コンベンション協会
第3回	大阪	令和元年10月9日(水)	CIM 研修センター新大阪東

表2 説明会・研修会のプログラム

	東京	北九州	大阪
説明会	「環境技術実証事業(ETV事業)の流れについて」(環境省 大臣官房 総合政策課 環境研究技術室)		
	「実証のプロセスについて」		
	NPO 法人日本トイレ研究所	(一社) 埼玉県環境検査研究協会	
	(一社) 埼玉県環境検査研究協会	日本ミクニヤ(株)	
	NPO 法人地中熱利用促進協会	(一社) 小水力開発支援協会	
	「実証済技術の事例紹介(ETV事業のメリット)」		
	(株) 大都技研	(株) サンユウ	(株) 大都技研
	(株) 西原環境		宇部マテリアルズ(株)
	宇部マテリアルズ(株)		太平洋セメント(株)
	太平洋セメント(株)		(株) つばめホールディングス、 (株) エリス
<b>技術相談会</b>			
研修会	環境技術申請書を作成する際のポイント (技術調査機関：(一社) 産業環境管理協会)		
	「実証機関における実証の流れについて」(実証機関の役割、実証要領の留意点、よく受ける質問等) (実証機関：(一社) 埼玉県環境検査研究協会)		
	「ETV事業におけるISO14034等の役割とETV取得技術の海外展開方法」 (実証運営機関：いであ株式会社)		
	<b>技術相談会</b>		

表 3 説明会・研修会の開催結果

	開催地	参加者数		相談者数		相談率(全体)
1	東京	37	技術申請者候補：28 実証機関候補：8 その他：1	技術申請者候補：11 実証機関候補：2 その他：1		38%
2	北九州	14	技術申請者候補：10 実証機関候補：4	技術申請者候補：4 実証機関候補：0		29%
3	大阪	13	技術申請者候補：7 実証機関候補：5 その他：1	技術申請者候補：4 実証機関候補：3 その他：1		62%

## 2. 出席者アンケート結果の概要

説明会・研修会の会場で行ったアンケート調査の結果概要を以下に示します。

### 2.1 説明会・研修会を知った媒体

説明会・研修会を知った媒体については、最も多かった回答が「ETV 関係者からの案内」で、次いで「メールマガジン」「環境省ホームページ関連」となりました。

	回答者数	
環境省報道発表	8	6.0%
環境省 ETV ページ	2	4.0%
説明会リーフレット	1	2.0%
メールマガジン	11	22.0%
ニュースサイト	0	0.0%
ETV 関係者からの案内※	25	50.0%
その他	3	6.0%
無回答	0	0.0%
計	50	

※「ETV 関係者からの案内」との回答の内訳

- ・実証運営機関からのメール等：4 名
- ・実証機関からの案内：6 名
- ・未記入：15 名

## 2.2 ETV 事業の活用

	回答者数
既に活用している	2
是非活用したい	5
前向きに検討したい	13
条件次第で活用したい	12
活用したくない	0
無回答	7

このうち、「条件次第で活用したい」とのご回答を頂いたケースでは、その条件として以下のような内容をご記載いただきました。

- 小規模で人材や費用の問題、進行予定に合う活動が出来るか？【費用】
- コストと営業展開【費用】【メリット】
- 費用・有効性【費用】【メリット】
- ETV 実証で取得した技術を使用したものについて補助金等の支援が受けられると検討しやすい【メリット】
- 費用負担がもう少し緩和されたら【費用】
- 実証試験の実施場所の選定。許可取得が困難と予想されるため。「認定試験場」などがあると申請しやすくなると考えております【実証場所の準備】
- 対象分野に該当するかどうか？わからないが対象であれば今後の展開に技術の裏付けとして利用したい
- 活用メリットがはっきりすれば利用したい【メリット】

## 2.3 環境技術の普及に関する環境省への要望

また、自由記述で環境技術の普及に関する環境省への要望についてお伺いしたところ、前述の ETV 事業への参画の条件と重なるご意見も含め、以下のようなご回答をいただきました。

### ◆ETV 関連

- 英語、仏語での公表サイトの整備 ⇒海外展開への支援(英語サイトは準備中)
- 経済産業省との棲み分け??5~10年以上の実績・ブラッシュアップの必要性を感じます ⇒類似の仕組みとの差別化
- 実証費用に使える使いやすい補助金などがあればありがたいです ⇒費用
- 条件、費用等 ⇒費用
- 実証費用負担の軽減の方法があれば公表して欲しい ⇒費用
- 優れた技術は関係省庁に紹介できるような方向で発展していただきたい ⇒メリット
- 申請者側の負担が大きい割には ETV 取得のメリットを感じにくかった。ETV の認知度が低いのでは ⇒メリット
- 窓口がわかりにくい。ワンストップの窓口が欲しい ⇒事業の広報
- このような機会 ETV を知ったという方もいた。ひとつの広報手段として継続して欲しい ⇒事業の広報
- 発表しなくとも技術開発者(過去の実証参加者)から、他の技術の展開を聞くことで刺激になったと意見感想を頂いた。今後の広報先に加えてもよいと思います ⇒事業の広報

### ◆ETV 以外

- 古い基準や時代に合わない規制の見直しと柔軟な運用
- 当社技術は ETV 実証が難しいとの事でしたが、他に適用できる内容の認証等あれば紹介して欲しい
- 臭気問題について先送りされている感がある
- 要望ではありませんが、省庁人数が少ない中で地球環境を考えるのは大変なことです、とても大事なことでもあります。頑張ってください

### 3. 技術相談の概要【紹介】

各会場で実施した技術相談においては、主に以下のようなご相談をいただきました。

#### ◆対象・項目について

- どの項目なのか
- 実証技術に該当するか
- すでに類似の実証がされている場合には不可であるか
- 基本的な技術としては一般に普及しておるもので特に新規性・先進性は語れないが、「小型化」には成功しており、この点においての実証対象として申請・採択の可能性はあるか否か
- 研究開発段階の技術がETVの対象になるのか。評価方法が確立できておらず、実証場所も決まっていない。環境総合研究推進費を利用した方がよいか

#### ◆申請の流れについて

- 具体的な申請の流れ
- 申請時にどこまでのデータが必要か

#### ◆事業の仕組みについて

- 試験実施場所について 自社工場設備やラボでも可能か
- 試験の実施において、実証機関との役割分担
- 負担費用イメージ
- 費用負担が大きい場合の対応は
- 申請者が準備した試験実施場所で有効なデータが取得できず、新たな試験実施場所が必要となった場合の手続きについて